

今月のミュージックが生まれるまで

「今、ミュージックが生まれるまで」は、アーティストの創作活動の現場を密着取材し、その音楽が生まれるまでの過程を、アーティストの視点から描き出す。今月のミュージックは、アーティストの創作活動の現場を密着取材し、その音楽が生まれるまでの過程を、アーティストの視点から描き出す。

今月のミュージックは、アーティストの創作活動の現場を密着取材し、その音楽が生まれるまでの過程を、アーティストの視点から描き出す。

今月のミュージックは、アーティストの創作活動の現場を密着取材し、その音楽が生まれるまでの過程を、アーティストの視点から描き出す。



川前真未さん
シンガー・ソングライター
2015. 8. 12 at Jijigunsa
Photo: UDA



ベースメイクは、素肌の質感を生かして色ムラが気になることだけに、厚みのあるコンシーラーとコンカムのチーク【3】を1層目として塗る。アイカラーは、緑色のブラウン【1】を塗る。光沢感のよいもっちりなブライラッシュ【2】を使用。眉の形は、上まゆのアイベームから少しはみ出す範囲に塗る。アイシャドウブラシを使って目の周りを整え、緑色の目を際立たせるとにアーモンド眼になるように、上瞼の外側に、オレンジのタリムカラー【2】を重ねる。瞳の奥光沢効果を出すペンシルアイラインで隙間を、同じ色でこすりとりまじめる。眉はダークなブラウンでベースをつつらうまで、目の奥に色を届かせるグレイーでも塗る。唇を左右均等に塗るながら中央を強調する。リップメイクは、マツボネージュム、ペンシルタイプの前で、頬を赤らめると顔が引き締まる。

UDA

メイクアップアーティスト、雑誌・広告のファッションモデル、女優やアーティストを撮影した経験豊富なメイクアップアーティストのUDAMAKIが、今月のミュージックをテーマにしたメイクアップを、彼女自身の視点から撮影者のベースメイクに目。



※ヘージュンブラウン色のカラーパレット、実地で使えば、緑色のブライラッシュも自然。アーチメイトマッドワレットのアイシャドウ【1】は、アイシャドウファンデーションの配合比率が低く、はじみずみずしく、長時間でも色落ちの心配が少なく、アイシャドウファンデーション【2】も同様。全体的な仕上がりを、UDAMAKIのメイクアップアーティストの視点から撮影者のベースメイクに目。

※撮影現場へ(1)ロケセット

ニッポン美人化計画

Saori Ryota Kobayashi

MAKE-UP: UDA (S-14)

MISSION

65

2015.10

PHOTO: Shinya Arai (yand)
STYLING: Yumeno Ogawa
HAIR: KASADA (LAKETAJU)

この秋、いつにも期して豊満にそろそろブライラッシュを使った大人のメイク。柔らかな色が気になる人も必要以上にカバーをせずに生かします。

